

吉川元偉 前国連大使 特別対談第3回【神田外語大学の学生たちへのメッセージ】

2017.10.10



前国連大使の吉川元偉（よしかわ・もとひで）先生と、神田外語大学グローバル・コミュニケーション研究所の久保谷富美男先生との対談の様をお届けする最終回。世界での活躍をめざす神田外語大学の学生たちに向けて、吉川先生がおくるアドバイスとは。



〈久保谷先生〉

世界をフィールドに働くことを考えた場合、国連に限らずNPO・NGOという選択肢もあります。NPO・NGOなどで働くことについて、吉川先生はどのような考えをお持ちでしょうか？

〈吉川先生〉

今の国際社会では、主権国家だけが力を持っているのではなく、企業や市民社会が大きな影響力を持っています。例えば、途上国に流れる資金で、政府開発援助ODAの割合は2割を占めますが、それ以外の8割は民間資本による貿易や投資とNGOや教会の支援金です。このような現状を踏まえると、世界を舞台にして働く上では多様なキャリアパスがあり、NGOやNPOなどの組織で働くことも、一つの道であるといえます。実際にNGO・NPOに所属する日本人で、世界中でさまざまな活動をなさっている方々がいます。皆さんの職業選択の際にも、自分がまず何をしたいのかを念頭に置きながら、どの会社に行くのかではなく、どういう職業に就きたいのかを考えるのがよいのではないのでしょうか。



〈久保谷先生〉

世界で活躍したいと考えている学生が今、すべきことは何でしょうか？

〈吉川先生〉

まず好奇心を持って自分の周りで起こっている森羅万象に関心を持つことが大切です。テレビ、新聞、雑誌はもちろんインターネット上のニュースでもよいので、国内外の政治、経済、社会、文化などの情報を積極的に吸収し、世界の俯瞰図を頭の中に入れようと日々努力することです。その中で関心を持った事項について個々の歴史や美術、科学、文学などを通じて人間としての深みを身につけていく。こうしたベースがあると、世界で起きている事象に対して自分なりの視点を持てるようになると思います。そうでなければ、他人の意見を疑うことなく聞くだけとなります。その意味でこの大学での4年間は、様々な事象に興味を持って下さい。

〈久保谷先生〉

それでは本学のような「外語大学」で学ぶ学生が言語を学ぶ上で注意すべき点は何でしょうか？

〈吉川先生〉

外語大学で学ぶ皆さんの心に留めていただきたいのは、言語は人とのコミュニケーションのためのツールだということです。ツールはたくさん持っている人のほうが人生はより楽しくなるし、自分の活躍の場が広がります。ただし、バックグラウンドの異なる相手の文化や歴史を受け止め理解できない限り、真の相互理解はできません。ここでキーとなるのが、言語と異文化とを合わせて学ぶことなのです。1つ付け加えると、国際社会で皆さんが英語を話す時、使う相手がかならずしも英米人に限らないということです。中国、タイ、ブラジルなど、英語を母国語としない相手の方が多いかもしれません。例え相手が何人であっても、アクセントを障害と思わず言葉の一部と思って率先してコミュニケーションを図って下さい。文法や発音も大切ですが、まずは話の中身と相手を理解する術を身につけてほしいです。

〈久保谷先生〉

それでは最後に、学生たちに向けてメッセージを頂けますか。

〈吉川先生〉

今年は「ハリー・ポッター」が世に出て20年の節目となります。私がニューヨークに赴任していた2000年に、ちょうどシリーズの第4巻が刊行されました。当時、私の次男は11歳で滅多に早起きなどしない子が、このハリー・ポッターの新刊を買うためにわざわざ早朝から起きて本屋に行きました。そして、アメリカに行ってもまだ2年もたため小学生が、「ハリー・ポッター」に限っては瞬く間に読んでしまった。まさにハリー・ポッターが持つ魔力だと今でも思っています。さて、息子がこれほど夢中になったハリー・ポッターの中に、立派な魔法使いになるために大切なこととして魔法学校の先生が挙げる「3つのD」というキーワードが出てきます。3つのDとは「Destination」「Determination」「Deliberation」の頭文字です。将来何をしたいのかの「Destination」、その目標を成し遂げる決意である「Determination」、そしてそのための道筋「Deliberation」です。

私は、この3つのDはハリー・ポッターの物語世界に限らず、人生の本質に近いと考えています。自分が何をしたいのか。まず「Destination」を考え、そのために何をしたらいいのか筋道をつけて、決意をもって取り組む。それは単に有名大学や企業に入るのではなく、地位や名誉を得ることでありません。「Destination」を自らの意思で決めたのであれば、あとは「Determination」さえあればどのような壁であろうと突破できるはずで、皆さんもそのような想いで、世界へ向けて挑戦してください。



吉川元偉（よしかわ もとひで）先生



1951年、奈良県生まれ。国際基督教大学教養学部社会科学部を卒業後、1974年に外務省に入省。国際連合日本政府代表部特命全権大使・常駐代表、在スペイン日本国大使館特命全権大使、初代アフガニスタン・パキスタン支援担当大使、経済協力開発機構（OECD）日本政府代表部特命全権大使等を歴任。英、仏、西3カ国語を話す。